

令和5年度 大明小学校の教育について(教職員自己評価)の結果とまとめ

調査対象人数:教職員 26人

調査実施時期:令和5年12月4日(月)~12月22日(金)

今年度、評価項目の検討、一部の改訂を行った。保護者や児童と共通、または比較しやすい評価項目を入れ、より教育活動の改善が図りやすくなるようにした。また、今年度より小中一貫校となったため、小中一貫教育についての評価項目を甲西地区小中一貫校4校で共通して設けた。

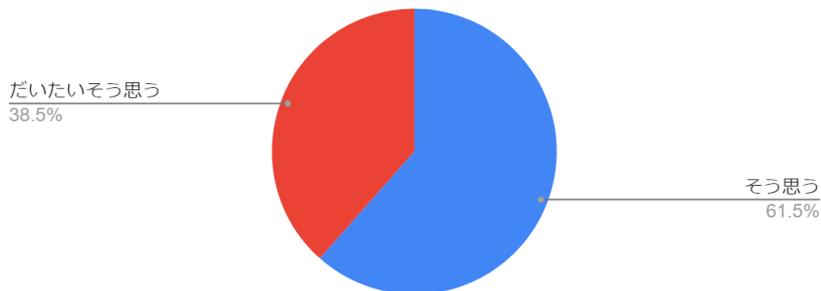
また、昨年度まで「良い」「普通」「改善が必要」の3段階評価であったが、今年度より「そう思う」「だいたいそう思う」「あまりそう思わない」「そう思わない」の4段階評価にし、保護者や児童のアンケートとの比較がしやすくなるようにした。

学校経営目標

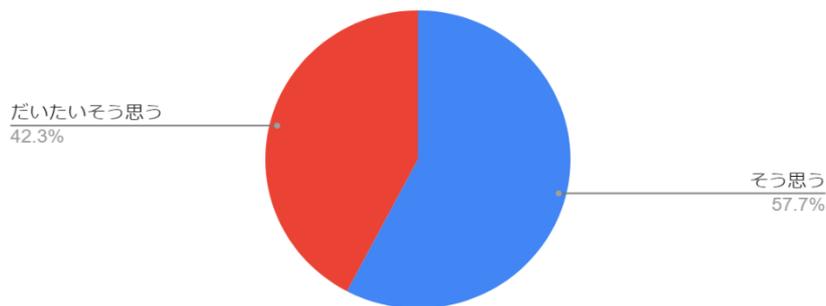
1. 学校教育目標や具体的行動目標は、適切に設定されている。

「自ら考え 活動する 心豊かな子ども」

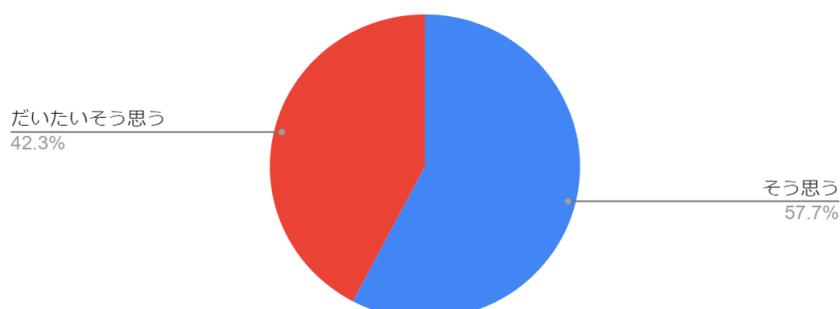
～あいさつができる きまりが守れる 進んで学習できる 思いやりがもてる～



2. 学年学級の教育活動は、学校教育目標を踏まえたものになっている。



3. 学校教育目標や経営方針が児童や保護者に理解されるよう配慮されている。



【考察・改善点】

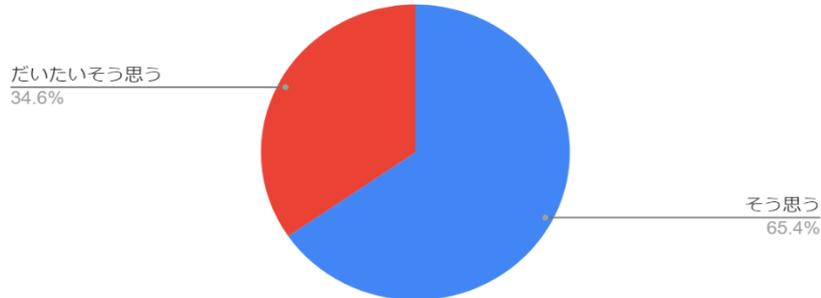
教職員が学校教育目標や具体的行動目標を意識し、共通理解をもって教育活動に取り組むことができている。

学校のHPや学年だより等で本校の経営方針や日々の教育活動の様子を適宜、保護者や地域の方々に伝えている。保護者のアンケート結果を見ても、90%以上は、肯定的な意見となっている。今後も保護者や地域の方々の願いや要望を丁寧に聞き取り、経営方針に生かし、教育活動を円滑に進めていきたい。

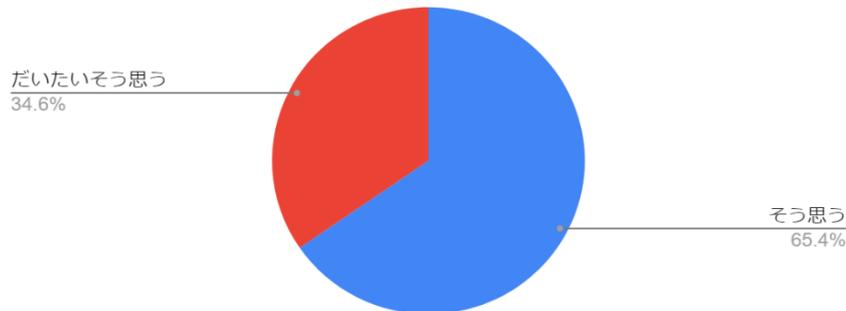
また、さらに学校での教育活動の様子を保護者や地域の方々に伝えていけるように努力していきたい。

学校組織・学校安全

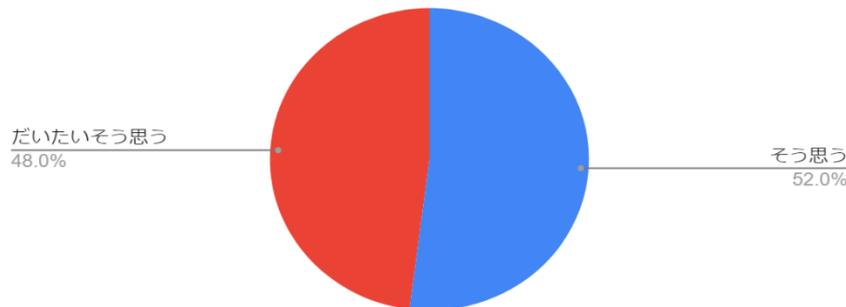
4. 学校運営に関する報告・連絡・調整はスムーズにできている。



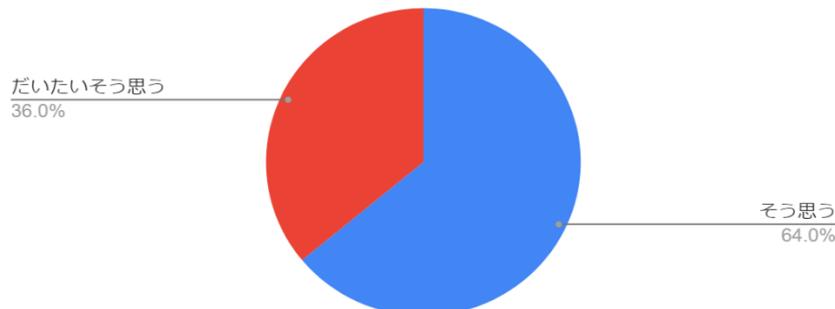
5. 会議や打ち合わせは学校運営に適切に機能している。



6. 教育課程に本校の特色が生かされている。



7. 研究主題は、学校課題に合った適切なものである。



【考察・改善点】

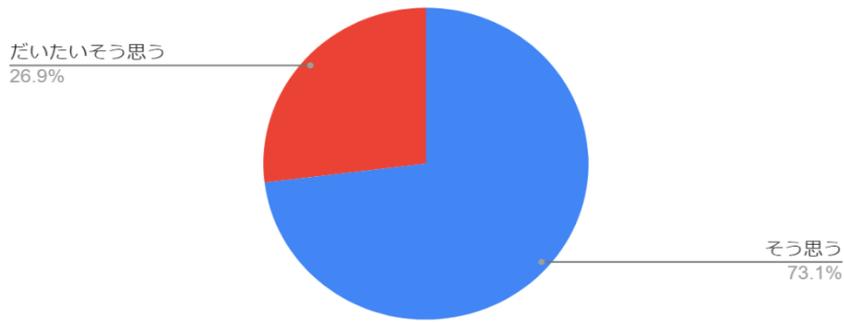
教職員間の連絡調整は、スムーズにできている。しかし、教職員の勤務体制により、半日勤務の教職員がいたり、曜日によって勤務しない職員がいたりするので、連絡漏れや情報共有が滞らないよう、これからもさらに工夫改善に努めていく。

校内研究においても、学校や児童の実態に即し、研究主題が設定され、教職員全体で授業づくりに取り組むことができていると感じる。

今後も、会議や打ち合わせ等において、教職員の意見が言いやすい雰囲気づくりを続けていきたい。

校舎を含め、学校施設や設備の老朽化が見られるところもある。修繕が必要な場所は、市教委への依頼も含め、児童の教育活動や生活に支障がないように修繕に取り組んでいきたい。今後を見通した学校施設整備に取り組んでいきたい。

8. 校舎内外の施設設備について定期的に点検し、結果を適切に処理している。

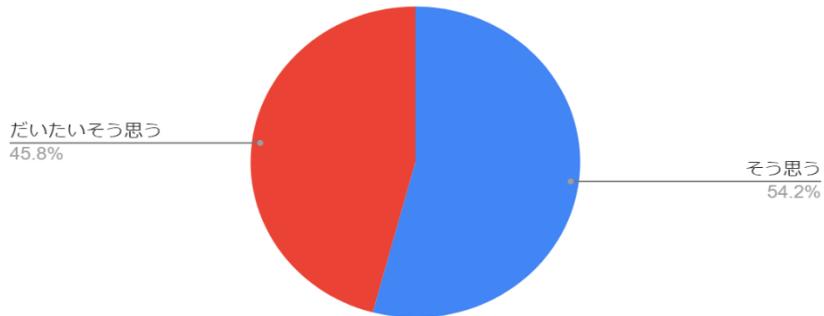


出された意見

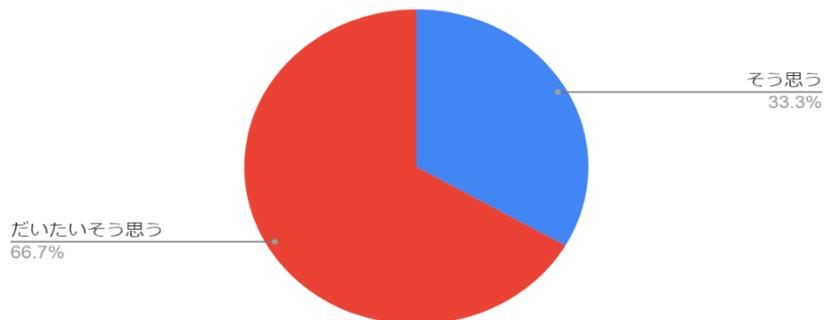
明るく、働きやすい職場で感謝しております。

学習・生徒指導

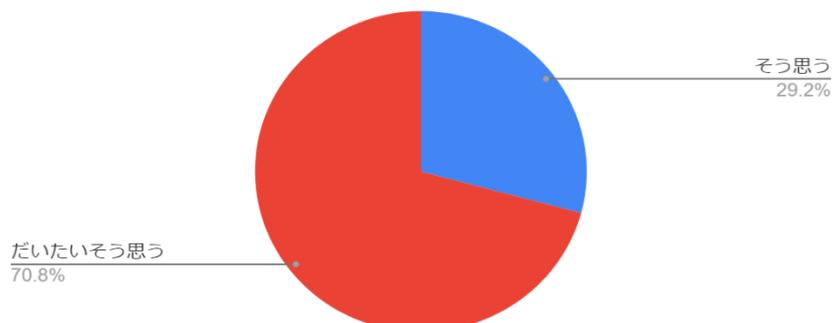
9. 教材研究・事前の準備等を行い、分かる・楽しい授業づくりに努めている。



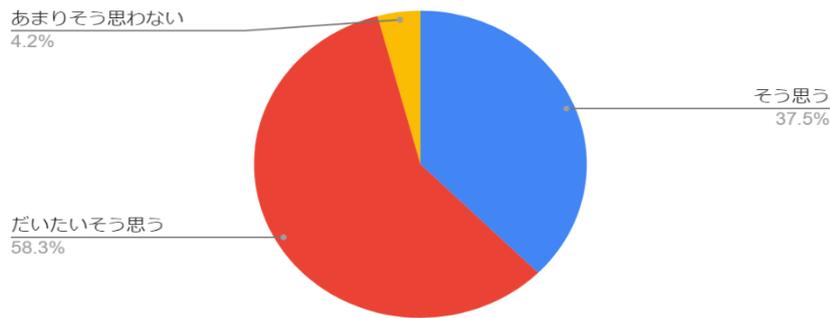
10. 創意工夫のある授業実践を通して、自ら学ぶ意欲と態度を育てることができている。



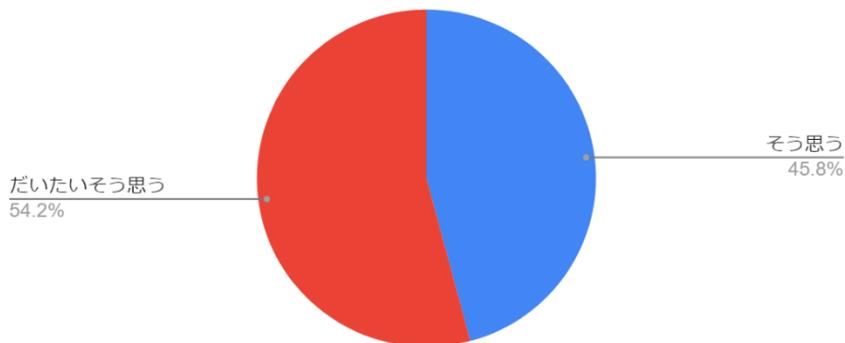
11. 授業でICT機器やタブレット端末を有効活用し、深い学びにつながるような工夫をしている。



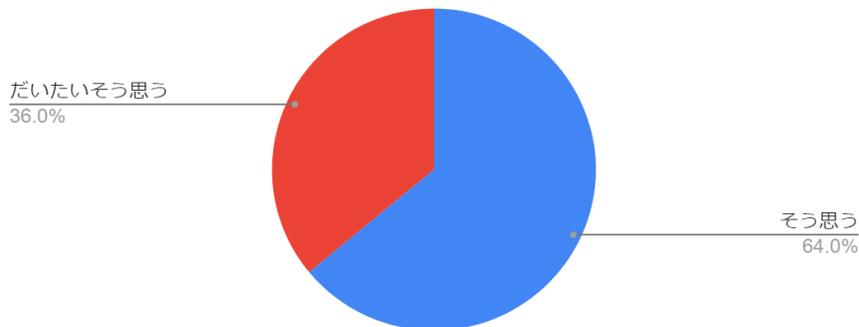
12. 道徳の時間を要として、道徳的实践力・道徳性などが高められている。



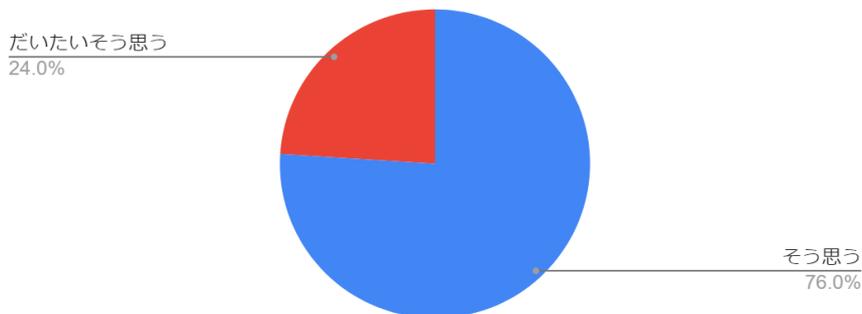
13. 学級活動や児童会活動は、自主的・自発的に運営されている。



14. 学校行事は、学校生活に活力を与えるよう計画運営されている。



15. いじめのない(許さない)誰もが楽しい学級・学校づくりに努めている。



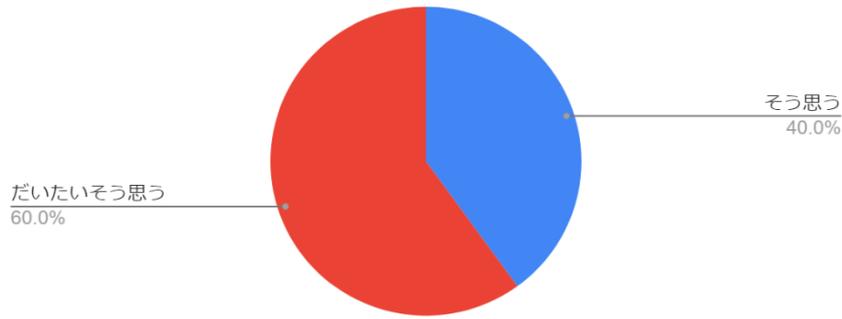
【考察・改善点】

学習指導においては、各教職員が教材研究や児童の実態把握に努め、授業づくりを行っている。保護者の方々も、学校の学力向上の取組について、肯定的な回答が多かった。今後も、さらに、研究と修養に努め、創意工夫ある授業づくりを行っていく。また、授業や家庭学習でのICT機器の有効活用についてもさらに、推進できるようにしていく。

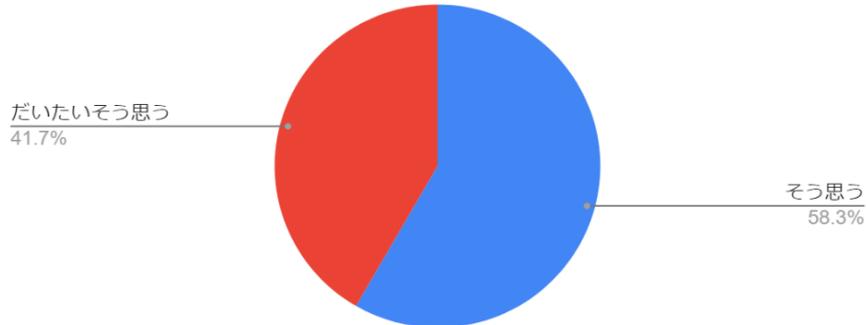
道徳的实践力や道徳性を高める教育に関して、若干の改善が必要という意見が見られる。道徳の時間を充実させるとともに、日常生活に生かしていけるよう、道徳の授業と生活のつながりについてさらに研究を深めていきたい。

「いじめ」の防止についても、多くの教職員が、意識を高く持ち、指導に当たっていることがわかる。しかし、保護者アンケートと比較してみると、若干の意識のずれが感じられる。児童の様子や気持ちをさらに丁寧に見取っていくとともに、学校での指導や取組を保護者に詳しく伝えていくようにしていきたい。

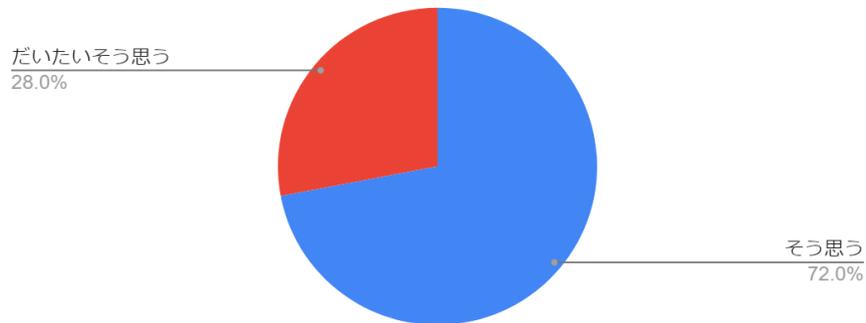
16. 読書に親しみ、読書意欲を高めるような指導に努めている。



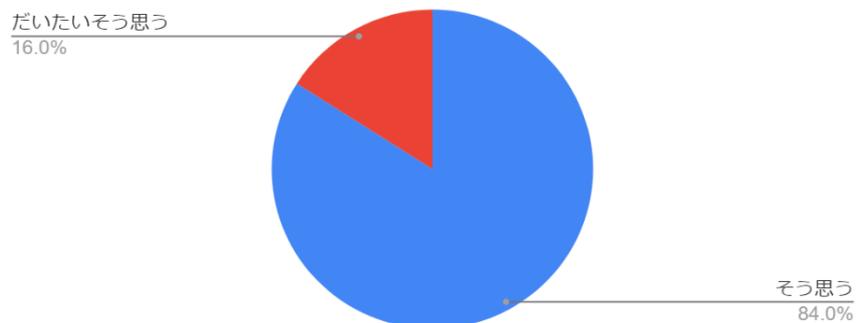
17. 自分の命を守る行動がとれる児童の育成に努めている。



18. 職員が共通理解をもち生徒指導を推進している。



19. 支援委員会を中心とした支援が適切に行われている。



【考察・改善点】

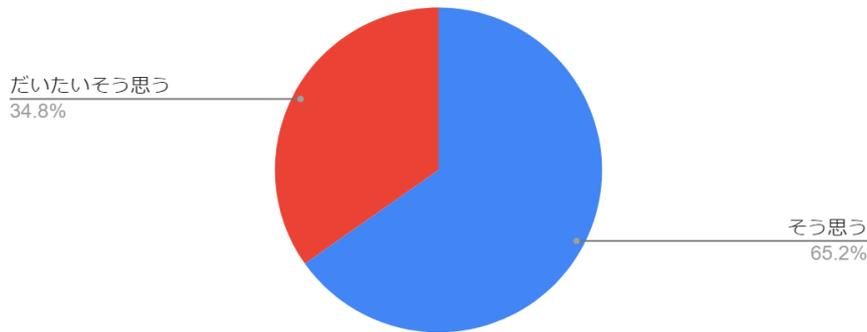
教職員が共通理解のもと、生徒指導・支援にあたっている。支援委員会も十分機能しており、学校全体で児童の指導支援ができると自己評価している。

本校は、若い教職員が多いが、特別支援コーディネーターを中心に、支援が必要な児童への支援も全校体制で取り組むことができている。今後も、担任だけで抱え込むのではなく、全校体制で児童を支えていくことができる体制を持続していきたい。

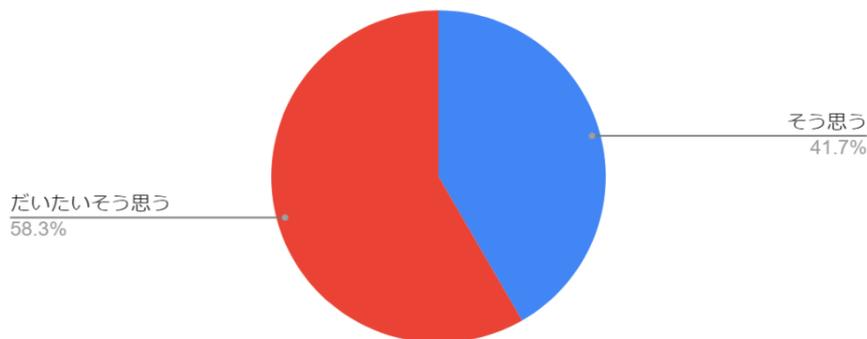
上記の道徳的実践力とも関わって、全ての児童が安心して学校で過ごすことができるようにしていきたいと考える。

家庭・地域との連携

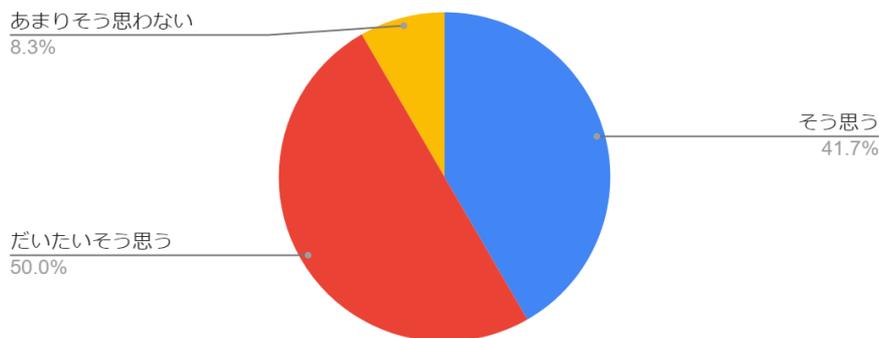
20. 授業参観・懇談会は適切である。(回数・内容・出席率)



21. PTA活動は目標達成のために展開されている。



22. 地域の人材や学校応援団を積極的に活用している。



【考察・改善点】

今年度より、授業参観に加えて、学校開放日を1、2学期に3日ずつ設定した。保護者からは、「普段の授業の様子や児童の生活の様子を見ることができ、良かった。」という肯定的な意見が聞かれている。

来年度以降も、より多くの保護者が都合をつけられるよう、3日ずつくらいの学校開放日は設定していきたい。

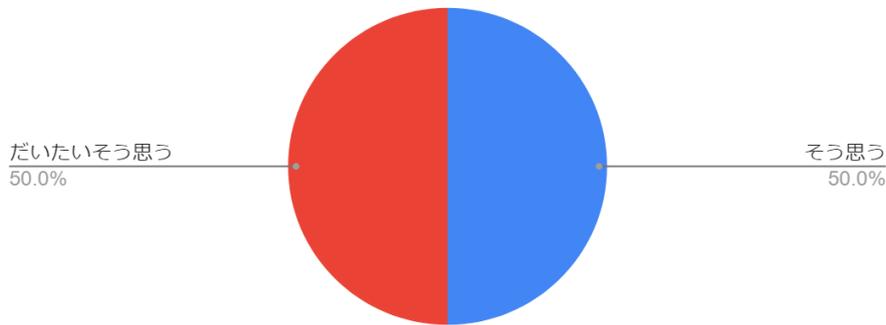
昨年度まで、コロナ禍だったこともあり、地域人材の活用については、課題もみられる。来年度以降は、地域人材や学校応援団の活用について、教職員で協議し、積極的に活用できるようにしていきたい。

出された意見

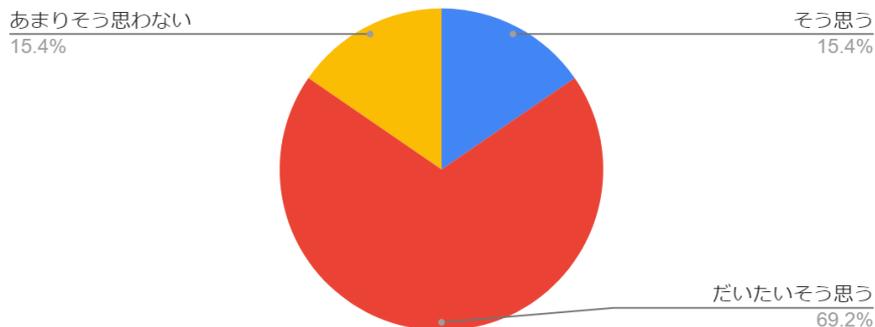
11月の学校開放日は、文化発表会もあるので、2日間でもよいかと思いました。

児童の姿

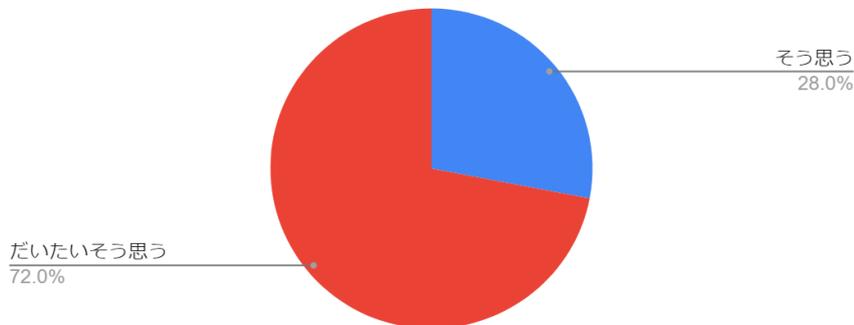
23. 児童は、学校が楽しいと感じている。



24. 児童は、明るいあいさつができています。



25. 児童は、清掃活動にまじめに取り組んでいる。



【考察・改善点】

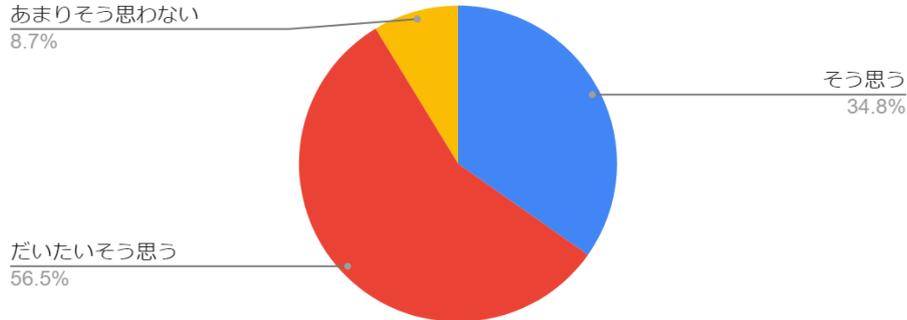
教職員の多くは、児童は、「学校は楽しい」と感じていると考えているが、児童や保護者アンケートの結果と比較すると、若干であるが、差が見られる。どの学年でも、わずかではあるが、「学校が楽しくない」と感じている児童がいるので、これからもさらに丁寧に児童の思いや気持ちを聞き取り、様子を観察し、家庭と綿密に連絡を取り合っていく必要があると感じる。

あいさつや清掃活動への取組については、教職員と児童との思いにあまり差はみられなかった。あいさつに関しては、児童会での取組の成果もあり、多くの児童が明るく挨拶ができています。より気持ちの良いあいさつや地域の中でのあいさつ等も含めて、あいさつの質を上げていくような指導や取組について考えていきたい。

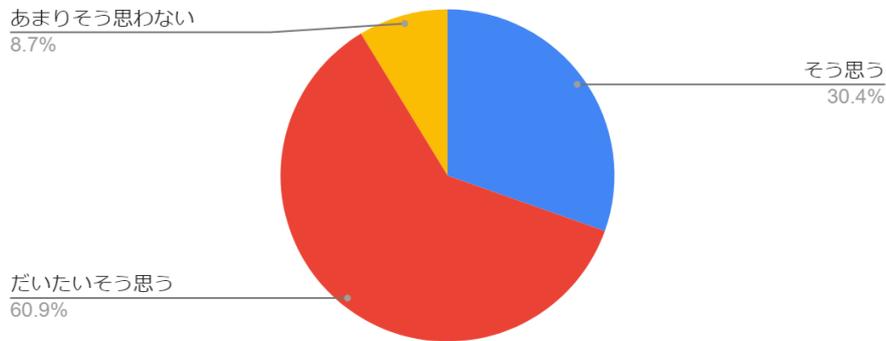
本校の児童は、まじめに働くことのできる児童が多いと感じている。児童に肯定的にフィードバックするとともに、教職員も児童と一緒に働くことを続けていきたい。

小中一貫教育

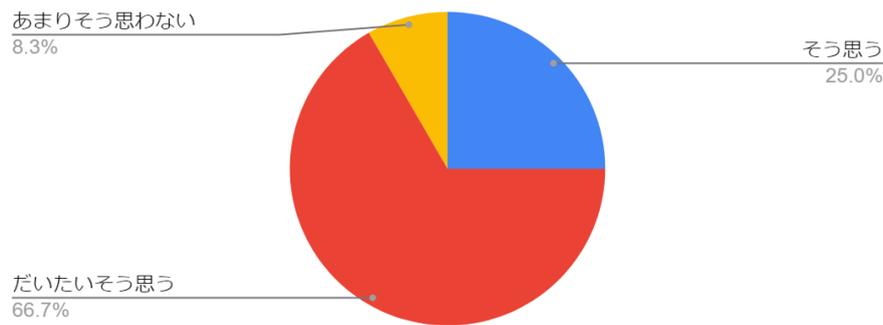
26. 小中連携の目指す児童・生徒像（ふるさと、人、学びを大切にする甲西の子）を意識して教育活動の推進に努めている。



27. 義務教育 9 年間を見通した教育課程を編成し、実践つなげている。



28. 小中で連携した研究の推進や交流活動を展開することにより、中 I ギャップの解消につなげている。



【考察・改善点】

今年度小中一貫校としてスタートしたばかりであり、まだ多くの課題や改善点がある。しかし、今年度小中一貫教育の研究会を通して、各小学校同士や小学校中学校の連携について、教職員間で、交流や情報共有の大切さの共通認識を持つことができたと感じる。来年度以降、今年度の取組を基に、さらに教職員や児童の交流が進んでいくようにしていきたい。

出された意見

- 小中連携については、特に6年生児童の情報交換や実態観察など時間をかけて行っていくべきではないか。
- 小中の連携が始まり研究は少しずつ進んでいるが、まだまだ実際のところで教員間・児童間の交流が進んでいないように思われる。学業不振・不登校の増加など、小学校から中学校への移行において課題を感じている。